

観点別学習状況の評価の観点の整理

＜現行＞

技能

知識・理解

<新>

主体的に学習に 取り組む態度

現行の4観点で評価していた指導事項が、全て3観点に再整理されました

改善等通知
小学校児童指導要録（参考様式）
様式2（指導に関する記録）表面

[illegible]

具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要。

【総合的な学習の
時間の記録】

＜参考＞ 改善等通知別紙1及び別紙2

※中学校生徒指導要録(参考様式)においても同様

(従前の評価の観点)

【総合的な学習の時間の目標(第1の目標)を踏まえた教科の観点の例】			
よりよく問題を解決する資質や能力	学び方やものの考え方	主体的、創造的、協同的に取り組む態度	自己の生き方
【学習指導要領に示された視点(第3の1(4))を踏まえた評価の観点の例】			
課題設定の力 (学習方法)	情報収集の力 (学習方法)	将来設計の力 (自分自身)	社会参画の力 (他者や社会との関わり)
【各教科の観点との関連を明確にした評価の観点の例】			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

（改訂における評価の観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に係わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

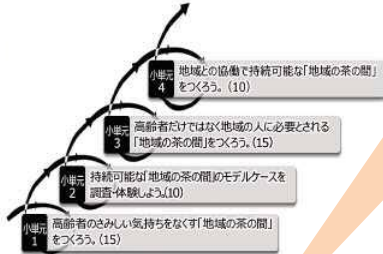
学習指導要領の目標を踏まえ、各学校が具体的に定めた目標と内容に基づき設定します。

指導と評価の計画 例

総合的な学習の時間 事例2	
キーワード 指導と評価の計画、「知識・技能」の評価、児童の学習の姿と見取り	
単元名	内容のまとめ
地域の絆を再生しよう（第6学年）	「福祉」（全50時間）

本単元は、全体計画に定めた探究課題「身の回りの高齢者とそのくらしを支援する仕組みや人々」を踏まえて構想した単元である。地域住民の高齢化と核家族化により、「今日一日誰とも話をしなかった」「気が付いたらテレビに話しかけていた」といったさみしさを抱えながら孤独に暮らす高齢者が増加しているという背景があった。

本単元は、児童がこうした状況を問題だと捉え、高齢者の孤独の解消に向けて、地域の誰かが集い交流できる「地域の茶の間」を創設することを学習課題として設定し、その解決に向けて取り組むものである。



1 単元の目標
高齢者の孤独の解消に向けた「地域の茶の間」をつくる活動を通して、高齢者のくらしを支える人々の取組や思いに気付く、「地域の人々が集い交流できる場」の在り方について考えとともに、世代を越えて交流していくことの大切さを感じながら生活していくことができるようになる。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①「地域の茶の間」は、地域の人や思いを共有し協働してつくることで、持続可能なものとなることを理解している。	①地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題を設定し、解決に向けて自分ができることを具体的に考えている。	①「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達のことを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。
	②日常的に気持ちのよい挨拶をしたり、分かりやすい話し方をしたりして、高齢者に適切に関わっている。	②持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。	②課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。
	③高齢者への接し方など自分の行動の変容は、高齢者とその暮らしについて探究的に学んだことによる成果であると気付いている。	③伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	

「単元の目標」は、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを旨とするのかを明確に示したものです。

単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、「評価規準」を作成します。

「自己理解・他者理解」「主体性・協働性」「将来展望・社会参画」などについて設定します。

探究のプロセス（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を踏まえて設定します。

「概念的な知識の獲得」「自在に活用することが可能な技能の獲得」「探究的な学習のよさの理解」について設定します。

<参考>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
国立教育政策研究所 教育課程研究センター（平成2年3月）

観点別学習状況の評価の進め方 例「知識・技能」

3 指導と評価の計画（50時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知 見 態	評価方法
1 高齢者のさみしい気持ちや思いに気付く、「地域の茶の間」をつくる。（10）	・地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気付く、理想と現実の隔りから学級全員で取り組む課題を設定する。 ・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。 ・学習課題に際し、「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら、複数回の「地域の茶の間」を開催する。	①	・発言内容 ・作文シート
2 持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう。（15）	・「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意義や価値を考えることで、課題を再設定する。 ・「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。 ・モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いについて考える。 ・自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方に気付く。	②	
3 高齢者だけではなく地域の人々に必要とされる「地域の茶の間」をつくる。（12）	・持続可能な「地域の茶の間」の実現に向け、必要な情報を集め、場所や日時、プログラム等の計画を立てる。 ・学習課題に際し、持続可能な「地域の茶の間」の計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。	③	
4 地域との協働で持続可能な「地域の茶の間」をつくる。（13）	・これまでの活動で課題が解決されたかを振り返るとともに、地域の誰と協働すればよいかを考える。 ・地域の人と、協働で持続可能な「地域の茶の間」を継続開催することを働きかける。 ・これまでの活動を通しての自分の実感を振り返り、作文にまとめる。	④	

評価場面：
持続可能な「地域の茶の間」の在り方を話し合う場面

評価：
発言から「概念的知識の習得状況」を評価していきます。

評価場面：
これまでの活動を通しての自分の変化を振り返り、作文にまとめる場面

評価：
作文シートの記述から、「探究的な学習のよさ」を理解している姿を評価していきます。